

## 関西選手権、箕面自由学園高・中（大阪）がエントリー全部門を制覇

### ～ Division 1 高等学校・中学校の部 編 ～

JAPAN CUP 2025 日本チアリーディング選手権の出場権をかけた地区予選・第2弾となった第34回関西選手権大会が6月15日（日）Asueアリーナにて開催され、延べ91チーム・1206名の選手が出場し、雌雄を決した。

自由演技競技・総合優勝は**箕面自由学園高（大阪）**が輝き、規定演技競技・総合第1位も、**梅花女子大学（大阪）**との0.5点の僅差で同校が手にした。今大会では箕面自由学園の中高が、エントリーした全ての部門（Division1 高等学校、Division 2、Division 2 高等学校ユースの部、スモールグループ演技競技 女子部門、Division1 中学校、Division1 中学校ユースの部）において、優勝・第1位を獲得するという圧巻のチーム力を見せた。



全チーム JAPAN CUP 出場権を得た、箕面自由学園高等学校・中学校の選手たち

#### 【会場を大いに沸かせた高等学校の部】

優勝した**箕面自由学園高（大阪）**は「横回転3回のピラミッド”トリプル アップ”4本という史上初めてのチャレンジをコーチから課してもらえたことが、今までにない高いモチベーションに繋がった」と選手が言うように、超高難度の構成に挑む自負がその背中を押した。音楽1曲目の最後、「トリプル アップ」4本のうち2本をこらえ2本をクリーンに決めると、そこから演技は波に乗った。チア サイドラインパートの“ハーフ ストラドル フルアップ（1/2横回転して開脚し、さらに1回横回転する）”ピラミッドの回転が乱れたが持ちこたえ、2曲目では宙返りでクライミングする“リワインド”ピラミッド4本を疾走感のある音楽とスピードに乗って次々と決め、ラスト2-2-3のピラミッドでピタリと締めると、会場はこの日一番の大歓声に包まれた。



4本目のトリプル アップを決めた箕面自由学園高



パートナースタッツでも見せ場を作った

準優勝の**梅花高（大阪）**も強豪校ならではの高難度の演技で猛追。ピラミッドでは“トリプル アップ”を2本、また、後方回転よりも難しい前方回転の“リワインド”のピラミッドを3本披露した。

また、パートナースタッツにおいては、トス後に開脚し片足の決め姿勢になるトウタッチ リバティ2本と、それに1/2横回転を加えたハーフ トウタッチ リバティ1本の流れから、前方3/4宙返り技からのリバティを3本決めた。その後、キック ダブルツイストでデスマウントするなど、多彩なバリエーションの技で観客の目を引き付けた。それだけに、安全規則違反（バスケット トスからのキャッチング違反）の減点が惜しまれる。



多彩な技を披露した梅花高



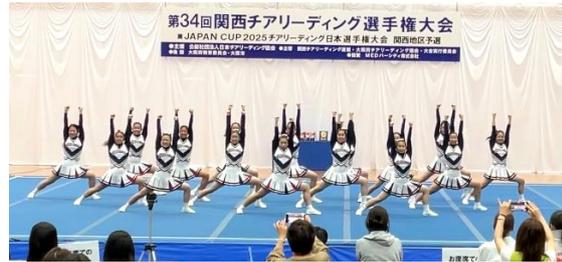
元気あふれる表情でダンスを披露する大阪産業大附属高

第3位の**大阪産業大学附属高（大阪）**は難度を落として演技全体を手堅くまとめようとしたが、一カ所ミスがあった。しかし、動じることなく最後まで笑顔で演技をつなぎ、声量も大きく丁寧な練習を重ねた規定演技との合算で、今年度も予選通過を掴んでいる。

第4位の**同志社国際高（京都）**は“フルアップ”3本のピラミッドに挑んだが、1本が落下し他の2本もキレが見られなかったことや、自由・規定演技ともに全体的なシンクロナイズーションや完成度に綻びが見られ、得点が伸び悩んだ。しかし、同校はここから演技の精度をぐっと上げて JAPAN CUP 決勝に駒を進めることが常であるため、今年もその伸び代に注目したい。

第5位の啓明学院高（兵庫）、7位の東海大学付属大阪仰星高（大阪）も健闘し、昨年同様フライデーターナメント出場権を得ている。

自由演技6位の立命館宇治高（京都）は規定演技が初の3位入賞となり、総合順位はチーム過去最高4位と大きく躍進した。



立命館宇治高の規定演技

### 【激戦が予想された中学校の部の行方は…】

チアフルレポートで大会前にインタビューした3チームが登場した、気になる中学校の部の結果だが、箕面自由学園中（大阪）が優勝し、梅花中（大阪）が準優勝、堺チアリーディングクラブ（大阪）が第3位となった。



手具を効果的に使って、観客にアピールする箕面自由学園中

声があがった。

箕面自由学園中は、演技冒頭のスピード感あふれるタンブリングや1.5ツイストアップのパートナースタンプ4本に象徴されるように、演技にキレや力強さがあった。終盤にミスがあったが、途切れない技の数々や、チアサイドラインパートでのサインボードやポンポンを用いて元気いっぱい呼びかける姿に観客から大きな拍手と歓



「チャレンジ&エレガンス」の梅花らしい演技を求めて



選手の少なさを感ぜせない演技を展開した堺チア

梅花中・堺チアリーディングクラブも、ともにミスや揺れはあったものの、その技数の多さ・展開の速さで会場を魅了した。中学校の部で上げられるピラミッドは2層までの為、スタンプ同士を様々な方法で組み合わせて連続した展開を見せてくれるのが醍醐味だが、両チームとも、工夫した飽きさせない演技構成で会場を盛り上げた。

さて、地区予選通過チーム数は各地区大会のエントリー数などにより、突破できるチーム数や得点が決定されている。当地区の中学校の部エントリーは 8 チームだったが、JAPAN CUP 出場を希望する 5 チームがその対象となり、予選通過は上位 1 チーム、フライデートーナメント出場権獲得は第 2 位・第 3 位の 2 チームとなっていた。しかし今年度より、規定・自由演技の合計得点が 450 点満点中 300 点という一定の高いハードルを超えた場合、フライデートーナメント出場対象のチームにも予選通過（準決勝への出場権）の措置が適用されることとなった。そして上記 3 チームはその基準を余裕で超え、いずれも予選突破。関西のジュニア層のレベルの高さを示した。

また、この 3 チームが「代々木」で見せる姿は一味違ったものとなると予想している。今回ミスが目立ったスタントの完成度を磨くことはもちろん、配点の高いアームモーションやダンスをさらにパワフルに表現できる素地があるため、今年もまた全国上位 5 チーム内に 3 チームの名前がランクインする可能性も十分ありそうだ。この記事を読んでいる方々にも、その演技をぜひ現地で見届けていただきたい。

続いた第 4 位の**履正チアリーディングチーム（大阪）**は様々なクライミングのスタントを披露し実力も上昇しているが、今年も JAPAN CUP への出場希望はないとのこと。第 5 位の**箕面チアリーディングクラブ SHINIES（大阪）**は息のあったタンブリングを演技に盛り込みミスなく演技をまとめていた。



1 年生 11 人を含んだ箕面自由学園中 のびやかに演技

ユースの部では 5 チームがエントリーし、総合 250 点以上獲得すると予選通過となる。突破できたのは第 1 位の**箕面自由学園中（大阪）**、それに続いた**履正チアリーディングチーム（大阪）**、**箕面チアリーディングクラブ SHINIES（大阪）**の 3 チームであった。昨年から新設された難度の上限を押さえた部門だけに、JAPAN CUP でも、より基本を忠実になぞった美しい澁刺とした演技で躍進してほしい。

本サイトの記事、写真の転載はご遠慮ください。無許可の転載・複製は法律により罰せられます。

Unauthorized reproduction or duplication is punishable by law.